

臥龍が丘は緑なり

松高同窓会東京支部会報

平成4年新春号

母校創立80周年記念(創立明治44年3月)



ごあいさつ

平成4年の新春を迎えて

支部長 佐伯 益一



平成四年の新春を迎えるに当り

謹んで御祝詞を申し上げます。

まだ師走にもならぬのに新年おめでとうと言わねばならぬこの心苦しさ。これも浮世の習いかと思ひながらもこの会報が皆さんの手許に着くのは正月頃だから、やはりおめでとうだなど自ら納得して筆を取った。

同窓会について、私の考え、又訴えたい事は過去幾回かの“臥龍が丘は緑なり”或いは“松城”等の会報で述べており、計画する行事の実施に、会員の皆様の強力な^{かなめ}お力添えを頂き、又役員の方々には支部運営の大切な要として多忙にもかかわらず熱心に働いて頂いている事は、とりもなおさず私の予々の主張が十二分とはゆかぬも、ある程度は理解されて来ているものと考え、有難く感謝している処である。

同窓会の活動について、いくらボランティア活動であったとしても、時間的経済的な負担を役員に強い、報われる事の少ないのを思い、役員とは損な立場にあるな々と役員諸兄姉に申し訳なく感ずる時が再々ある。所謂、役得の反対の役損だなど。然しこれも松城精神の発露とわり切らせて頂き、今後も益々一層の御協力を得たいと思っている。

そう言えば以前に帝国ホテルの社長の犬丸一郎氏が朝日新聞記者との対談で“役損”という言葉を使っておられたのを思い出した。

講話条約締結時の吉田茂元首相の有力ブレーンの一人であった白洲次郎という人から“役損というのを忘れるなよ”と辞書にも無い言葉を教わったという。“役損は上に立つ人の心得であり、身ゼニを切らなければものの良し悪しは分らぬと思うが身ゼニを切れる人が減って、もたれ合ったり役得に走る人が増えて、それこそ文化は育つのだろうか”と述べておられる。成程もっともなお説と感心した。だからといってこれを強要するものではないが参考までに御紹介しておきたい。

扱て平成3年を顧みてみれば、この年は国際・国内間

題、或いは事件等で誠に多彩な年であったが已に御承知の通りであるので一先ず措く事とするが、吾々にとって最も思い出となるのは母校の創立80周年を迎えた事である。県下の県立高校100の内、平成3年度内に創立80周年以上になる学校は38校に及び、吾が母校は創立順位34番目である。因みに、1番は長岡高校で、明治5年の創立、次いで高田、新潟商、新潟と続いている。“松城”にも書いたが只、存立期間が長かったという事のみで喜んでばかりは居れないと思う。

茂野会長も祝辞の中で“只輝かしい伝統云々と過去を見るだけではなく、その伝統を如何に生かし今後どのように進んでゆくかに大きな問題がある”と述べられている。80周年を祝い、記念として長年の念願であった雨天練習場が完成した。同窓や学校、その他関係者の方々が全力を挙げその設立に努力した愛校精神の成果がめでたいのである。大いに活用して天下に松高の存在を誇示してもらいたいものである。

東京支部、初の試みとして一泊による表敬訪問団を組織して学校を訪れた。参加者は18名でその他個人的に出席された会員10余名の方々と会場で会った。この報告は別稿に譲る事とするが御協力に御礼申し上げたい。

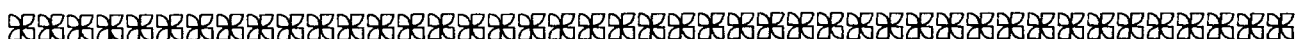
佐藤現校長、歴代校長渡辺、法性両先生と固い握手を交し、滝沢、小鷹両先生の元気なお姿を拝見したのは感激であった。旧い友人にも会えた。そして年齢の若返るのを覚えた。正に同窓会万々歳である。90周年までは是非元気でいたいものと痛感したが敢て私独りではあるまいと思う。

処で最後になったが、東京では毎年6月に支部大会を開催しているが、その都度、本年は果して第何回目の大会に当たるのであろうかと疑問を持っていた。この件については芳賀健一幹事が会報第6号にも記しておられるが、其の後同氏の懸命な調査によって次の事が判った。即ち昭和49年6月に第17回、50年に第18回と開催の案内状が水尾正二（中11回）支部長名で発送されており、これに先立つ昭和37年10月には近藤潮（中2回）支部長名

（表紙写真について）

80年の歳月、一万数千の生徒を迎え、送り出した懐しの校門。

後方校舎は70周年記念の際、竣功式を行っている。



の案内状も見つける事が出来た。逆算すると第5回という事になる。余談乍ら当時のハガキが5円であり50年頃が10円というのも、又懐かしい思いである。従って平成3年度の支部大会が第34回ということになり、大会の回数を数える事も又大切な歴史的推移と考えるので、出来得れば会員各位の御賛同の上、次回は第35回と銘打って開催したいと思っている。

各位に於て資料、御意見等ありましたならばそれまでにお寄せ下さるようお願いしたい。尚昭和61年発行の東京支部同窓会員名簿の中で私が第8代支部長となってい

るが前述の近藤潮氏の名前が抜けているので実際には私が第9代目となることになるのであるが、これも故山村勲氏のかすかな記憶の中から訊き出したもので或いは正確でないかも知れぬ。御教示頂ければ幸いである。

平成3年は皆さんに大変お世話になった。ホントにありがとうございました。

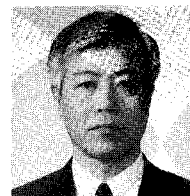
心からお礼申しあげます。

本年も又皆さんと元気に仲良く楽しく頑張ってゆきたいと念頭しております。

どうぞよろしく願いいたします。

東京支部のみなさまへ——記念式典を終えて

校長 佐藤義雄



さる10月27日は小雨まじりの日ではありましたが、県立村松高校創立80周年記念式典を挙げていたしました。来賓には、関東教育委員、福田県高等学校教育課長、滝沢高等学校協会会長(第22代校長)、梁取県議会議員、阿部村松町長、林五泉市長などの方々をお迎えして、盛大な中にも厳粛な式典を行うことができました。

式典は、これからの時代を担う生徒を、みなさまとともに育てる気持を表わすために、同窓の先輩を差し置いてメインの席についてもらいました。そのためか、生徒は式辞・あいさつ・祝辞をはじめ、長賀先生の「国際化

と私たち」の講演を熱心に拝聴しており、意義あるひとときであったと思います。

午後の記念祝賀会もまことに盛大であり、特に東京支部からおいでいただいたみなさまとお会いできた感動の声があちこちから聞こえてきました。お忙しい中をこの日のためにご参列下さいましたみなさまに、深く感謝申し上げます。次第であります。

これを機に、ますますのご支援、ご協力をお願いいたしますとともに、同窓会東京支部のますますのご発展とみなさまのご健勝をお祈り申し上げます。

〔私信〕

拝復、柿の赤い色と銀杏の黄色に秋を感じさせる日々です。今日(5日)お手紙を拝見いたしました。雑な文章になりましたが、当日の新聞記事と同封しました。10月27日は十分なおもてなしもできず大変失礼いたしました事をお詫びいたします。

この日を一つの節目として松高のために、精進を重ね

ていきたいと考えております。

今後ともご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

敬 具

11月6日

佐藤義雄

佐伯益一様

〔私信〕

拝復、久しぶりにお会いでき、しかもりっぱな80周年記念式典及び完成されました雨天練習場に東京支部長としての貴台様の母校に深い思いをされた事、大なりと深甚なる敬意を表します。このたびは私にとって記念すべき写真を恵送いただき有難く感謝申し上げます。

いよいよ越後は冬近しを感じております。貴台様をは

じめ御家族皆様のご健勝をお祈り申し上げお礼といたします。

11月5日

(前校長) 渡邊建夫

佐伯益一様



■平成3年度支部大会盛會裡に終る!!(6月1日)

平成3年度の東京支部大会は昨年度と同じ池之端文化センターで午後3時より開催された。受付の混雑を避けて午後2時より受付を始めたが已にロビーは満員となっていた。

当日の出席者は116名で昨年より上廻る事が出来たのは大きな喜びであった。本部からは新任の佐藤義雄校長、茂野敏郎同窓会長、貝瀬弘同副会長、担当の大塚滋明先生をお迎えして定刻3時に伊藤組織副委員長の開会宣言で始まった。型通りの各種報告、挨拶、祝辞のあと、昨年芥川賞に輝いた滝沢美恵子さんの挨拶があり賑やかに宴会は始まった。

本年の余興としては伊藤副委員長あっせんの村松英太鼓、佐久間企画部会長による永嶺ゆう子さんの出演により会場は一般と賑やかになり、久しぶりに出席の小沢幸子さんも飛入りで村松音頭を披露しカラオケ狂の出演する場が到々無かった事は残念であったが、旧中、旧女、高校の各グループの校歌、応援歌の合唱にウサを晴らしていたようであった。会員持ち寄りの抽選会も豪華で数多くこれも出席者に大いに喜ばれた。

◎支部大会出席の皆さん

〔旧中の部〕25名(五十音順)

五十嵐一郎、伊藤秀男、伊藤勇五、小田恕哉、加藤三代太、川瀬五郎、佐伯益一、佐久間精一、斉藤和男、関八十一、中村倉吉、中村雅明、長野武夫、奈良泰夫、西山莊平、芳賀健一、堀 哲二、見方謙策、水尾広吉、武藤三郎、村田泰次郎、山崎正男、横松宏平、芳原英男、渡辺文男

〔高校男子の部〕57名

青木 猛、新井康夫、青木敏和、五十嵐健、今井 正、今井道夫、伊藤勤吾、伊藤 颯、石川峯雄、石黒四郎、大江佳一、大島惣四郎、大橋貞夫、岡村嘉志、奥津嘉雄、笠原静夫、金子鶴男、川村莞爾、亀山知明、岸谷 武、菊地一雄、木村時也、佐久間英輔、坂上卓夫、篠川恒夫、沢出赳允、桜井 貫、新保 優、鈴木多喜男、鈴木 正、鈴木輝雄、関 孝世、関 和世、関谷雄二、田代信雄、高岡雄三、鶴巻 浩、鶴巻静夫、塚田 勝、羽下 力、長谷川五郎、長谷川安志、広田達衛、松尾正春、松井孝、松尾 了、松尾拓二、増田訓英、宮崎信次、宮沢正由、武藤三郎、八木又一郎、山崎輝雄、山田一男、吉井

最後は佐伯支部長の三拍子の手締め、佐藤校長の同窓会万歳三唱で午後6時過ぎ大会の幕を閉じたが役員全員出口で出席者をお見送りし、謝辞、再会の約束等の握手握手で比処も又嬉しい大混雑であった。あとから、セレモニーが長すぎてくたびれてしまったとの苦情もあったが確かに3時間以上も立ちづくめという事は次回の大いに考えなければならぬ問題であろう。

最後になったが今大会の余興のために色々と尽力され又御寄付も頂いた伊藤、佐久間、幹事並びに遠路村松から来られた英太鼓の方々に無料にて宴会食事等を提供された塚田勝幹事に厚く御礼を申しあげた。来年もこの会場で大会を開く。より盛大に、尚一層楽しく集う事が出来るように今から期待している。



大会会場風景

清、米山正祠、渡辺八郎

〔旧高女の部〕5名

一氏愛子、岡本和子、佐藤玲子、鈴木静子、原ヤス子

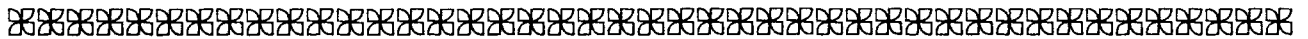
〔高校女子の部〕29名

阿部ミサ子、飯島玲子、池田智子、大竹和子、小沢幸子、緒形美恵子、岡野斉子、高部ユキ、片柳ムツ、川村香苗、木村孝子、久我マキ、小島典子、佐々木恵美、斉木明子、田中富子、滝沢美恵子、田中陽子、竹島幸子、寺山征子、治田レイ子、樋口綾子、深見洋子、眞水道子、升本久子、松本知子、山西愈佐子、吉井祐江、須藤信子

〔本部関係〕4名

(同窓会長) 茂野敏郎、(副会長) 貝瀬 弘、(学校長) 佐藤義雄、(担当職員) 大塚滋明

計 120名



平成3年度支部大会収支決算書

平成3年6月1日 池之端文化センター

ありがとうございました(1)

収 入 の 部			支 出 の 部		
大会会費		976,000	大会会場費		656,061
男@9,000			会場支払	635,976	
82名	738,000		持込洋酒	20,085	
女@7,000			余興特別出演		159,000
34名	238,000		謝礼	80,000	
祝儀		40,000	旅費補助	60,000	
特別寄付		60,000	太鼓送料	19,000	
			謝礼受付		10,000
			記念品		121,000
			名入手拭	71,000	
			校門絵画	50,000	
			通信費		52,829
			雑費		34,843
			小計		1,033,733
			剰余金		42,267
合 計		1,076,000	合 計		1,076,000

◎大会当日寄付者の皆さん

青木 猛, 伊藤勇五, 伊藤秀男, 大橋貞夫, 加藤三代太, 川瀬五郎, 佐伯益一, 斉藤和男, 篠川恒夫, 沢出超允, 関八十一, 塚田 勝, 鶴巻 浩, 中村雅明, 芳賀健一, 横松宏平, 渡辺八郎, 鈴木多喜男

以上18各 各 1,000 円 計 18,000 円

岡部ユキ 13,000 円 計 13,000 円

◎抽選用景品寄贈の皆さん(順不同)

小田恕哉, 岡村嘉志, 佐伯益一, 斉藤和男, 中村倉吉, 中村雅明, 武藤三郎, 村田泰次郎, 渡辺文男, 水尾広吉, 大橋貞夫, 川村莞爾, 佐久間英輔, 関 和世, 関谷雄二, 田代信雄, 鶴巻 浩, 山崎輝雄, 塚田 勝, 増田訓英, 滝沢美恵子, 石黒繁信(村松, 英太鼓), 沢出超允

以上23名の皆様から景品を寄贈して頂きましたが受付の混雑のため記名洩れの方も居られる事と存じますのでお許し下さい。

ありがとうございました(2)

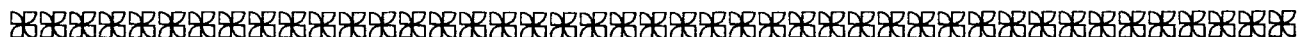
① 平成3年度会費納入の皆さん(其の一)

6月1日支部大会会場受付及び郵便振込みによる会費の納入状況(10月30日現在)

◎男子の部

相田英三郎, 相田栄七, 相田和平, 相田忠亮, 青木 猛, 新井康夫, 安中啓作, 青木敏和, 五十嵐一郎, 五十嵐健, 伊藤秀男, 伊藤勤吾, 伊藤 稔, 今井 正, 今井道夫, 石川峯雄, 梅田久次, 小田恕哉, 小見 勇, 大江佳一, 大島惣四郎, 大橋文夫, 大橋秀雄, 大橋貞夫, 岡村嘉志, 英津嘉雄, 落合義一, 加藤 豊, 加藤三代太, 笠原大四郎, 笠原静夫, 片桐賢太郎, 梶屋庄佑, 金子鶴男, 亀嶋謙, 亀山和明, 川合敏男, 川崎進一, 川瀬五郎, 川村莞爾, 木村時也, 岸谷 武, 北沢卓夫, 杵渕政海, 熊倉悟, 熊倉芳夫, 小池生夫, 小島哲衛, 小島眞一, 小浜穀郎, 近藤穀夫, 近藤英洋, 岡田見津夫, 佐伯益一, 佐久間精一, 佐久間二郎, 佐久間英輔, 佐々木秀和, 佐野善吾, 斉藤和男, 斉藤朝之, 斉藤誠七郎, 桜井 貫, 篠川恒夫, 沢出超允, 坂上卓夫, 茂野宏一, 新保 優, 鈴木健司, 鈴木多喜男, 鈴木政治, 鈴木 正, 鈴木輝雄, 瀬

倉 薫, 瀬倉武志, 関八十一, 関 孝世, 関 和世, 関谷雄二, 関山健芳, 田代信雄, 高岡雄三, 高地一郎, 高地 彰, 団 順一, 千代国一, 地濃昇一, 塚田 勝, 土田 猛, 弦巻 等, 鶴巻 浩, 鶴巻静夫, 寺田徳和, 寺田徳隣, 寺山和夫, 中野 博, 中村倉吉, 長沢友次郎, 長野武夫, 成海正弘, 奈良泰夫, 二平 晶, 西山莊平, 根本俊夫, 羽下 力, 芳賀健一, 長谷川五郎, 広瀬 憲福, 原平八郎, 堀 直昭, 堀川俊郎, 増田訓英, 松尾正之, 松尾 貢, 松尾拓二, 松尾 了, 松田長四郎, 松田輝夫, 見方謙策, 水尾正二, 水尾広吉, 宮 健三, 宮崎信次, 宮沢正由, 宮嶋八弥, 宮本 昇, 武藤三郎, 武藤正昭, 村川五郎, 村田泰次郎, 山口三郎, 八木又一郎, 山崎正男, 山崎輝雄, 山田一男, 横松宏平, 横山信夫, 吉井清, 吉田正平, 吉田公男, 米山正祠, 芳原英男, 渡辺文男, 渡辺八郎, 渡辺末五郎, 杉山 喬, 中山 孝, 高久貞夫, 小出博三, 佐藤豊夫, 清野一夫, 笠原健二郎, 安中盛介, 石黒四郎, 中村雅臣, 坪谷次郎, 佐藤 赴, 松尾眞一郎, 広田達衛, 大橋俊夫, 服部修治, 築取錦二, 長賀一哉, 近藤尚志, 堀 哲二, 伊藤勇五 (166名)



◎女子の部

荒井るり子, 阿部ミサ子, 五十畑キヨ, 飯島玲子, 石井洋子, 一氏愛子, 池田智子, 内田道子, 小沢幸子, 緒方美恵子, 大野靖子, 大橋玉枝, 岡野斉子, 岡部ユキ, 岡本和子, 大竹和子, 片柳ムツ, 川西恒子, 川村香苗, 木村孝子, 久我マキ, 熊倉芳枝, 小島典子, 近藤昌子, 佐々木恵美, 佐藤玲子, 斉木明子, 斉藤英子, 坂爪圭子, 島田淑子, 新保ミワ, 治田レイ子, 須藤信子, 鈴木則子, 鈴木節子, 田中富子, 高橋睦子, 滝沢美恵子, 竹島幸子, 武内満知子, 田中陽子, 寺山征子, 出口テル, 波田ミサエ, 原ヤス子, 馬場淑子, 樋口綾子, 深見洋子, 藤崎トヨ, 眞水道子, 升本久子, 丸山セイ子, 松本知子, 宮川陽子, 村田瑠都子, 山田ノリ, 山西愈佐子, 横溝田鶴, 吉井祐江, 佐藤八重, 松本豊子, 小林早月, 杉山和子
(63名)

② 寄付納入の皆さん (会費振込時)

会費振込時 ()内は金額 (単位千円)

加藤 豊 (7), 亀嶋 謙 (10), 川瀬五郎 (2), 沢出 起允 (2), 茂野宏一 (2), 関山健芳 (2), 田代信雄 (2), 寺山和夫 (2), 長沢友次郎 (10), 西山莊平 (2), 水尾正二 (22), 武藤三郎 (2), 山崎輝雄 (7), 横山 信夫 (2), 芳原英男 (2), 田中正紹 (3), 高地 覚 (3), 伊藤淳一 (10), 大橋玉枝 (3), 新保ミワ (2), 寺山 征子 (2), 眞水道子 (2), 佐藤豊夫 (2), 佐藤八重 (2), 大橋俊夫 (7), 広田達衛 (2), 千代国一 (3)
(27名)

支部大会雑景



会場にて来賓と



乾杯あいさつの91歳長野先輩



芥川賞作家の滝沢美恵子さん



旧中のお歴々



旧高女のお嬢さま方



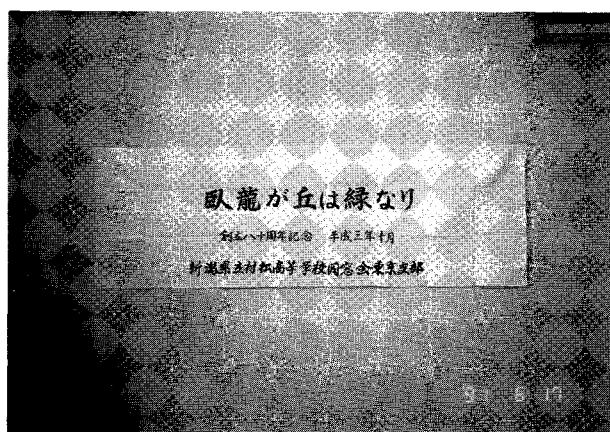
高校の若手
(何故か女性が見えないのがフシギ)



アトラクション (村松, 英太鼓)



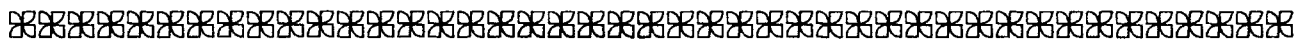
アトラクション (永峯ゆう子さん)



大会記念として頒布した手拭



みんなニコニコ退場を送る



〔創立80周年記念行事〕

◎母校表敬訪問紀行(10月26, 27日)

〔一〕かねてから母校創立80周年記念行事に集団で参加しようと計画していた東京支部では愈々その計画が実を結び、10月26日午前8時30分JR上野駅公園口に集合した。

午前9時一行15人(水尾広吉、佐久間精一、堀哲二、中村倉吉、武藤三郎、佐伯益一、芳賀健一、佐久間英輔、大橋俊夫、石黒四郎、大橋貞夫、鶴巻浩、岡本和子、一氏愛子、深見洋子の各氏)を乗せた26人乗り中型バスは一路東北道を北上、最初の目的地である猪苗代へ向う。(この猪苗代インターは東北横断道新潟いわき線の一端として本年8月に開通した。)車中では道中の安全を祈願し、夫々業務役割の担当幹事を定め千住新橋より高速に入る。やがて飲物、つまみ等の配給があり只でさえも賑やかな車内は冗談が飛び交い、カラオケが始まる。猪苗代では小休止となり、野口英世記念館を参観の予定であったが殆どの人が一度は訪れているので省略となる。(野口博士の生家は以前は無料で見られたが今では有料となっている。)ラーメンを食する人などあり磐梯山を背景に記念写真の後、再び車中の人となる。あとは49号線をまっしぐら。第二の目的地、飯盛山では白虎隊の墓に参拝する。白虎隊についてはあまりにも有名であるのでここでは触れない。急な石段を避けて1人250円也のエスカレーターを利用すると案内人が付く、そして活弁調の説明を聞き乍らぞろぞろ歩く。晴天に恵まれたせいか山頂は多くの参詣人でいっぱいである。年配の女性がハチマキ、ハカマ姿で剣舞を披露している。“ナゲ銭”はしないでくださいよと冗談を言い合う。

あとは会津柳津の福満虚空蔵尊(霊巖山、円蔵寺)に立ち寄り夕暮れ迫る折一同厳かに参拝する。この寺は凡そ1,200年前、名僧徳一大師によって開創されたと言う。以来日本三大虚空蔵尊の一つとして広く全国の信仰を集めており、干支の丑、寅の守り本尊でもある。宿舎のきりん山温泉の“ホテル福泉”には午後6時の到着、先着の3人(横松宏平、伊藤勇五、鈴木多喜男の各氏)と合流する。東京からの時間は9時間、ピタシ予定通りであり計画の正確さを感じさせる。

部屋割は公平を期して女性を除き抽選で決める入浴後宴会となる。バスの疲れも何のその、もう賑やか々々。カラオケが始まり遂に校歌、応援歌の大合唱で越後の秋の夜は更けてゆく。

〔二〕翌27日は朝から生憎の雨だが小降り。

9時30分の式典に間に合うよう午前8時半宿を出る。折角の紅葉も霧のためけむって見えない、訊けば11月の5日頃が盛りだという。

受付を済ませて校内に入る。旧友、先生方とヤアヤアの挨拶を交す。ふた手に分かれて一方は滋光寺参詣の予定であったがこれも雨のため全員記念式典に出席、他の父兄、同窓と共に生徒の後方に陣取る。型通りの式辞、祝辞と進み、11時から約1時間、第7回卒業の共同通信社情報統括部長長賀一哉氏の“国際化と私たち”と題する記念講演を聞くが高校生にとっても一般にとっても判り易い内容であった。(要旨別記。あとは校内や新設の雨天練習場等を視察して時間を待つ。

午後1時から町民体育館で開かれる祝賀会に出席のためバスで移動、約300人の出席者の見守る中、工事報告に次ぎ、工事功労者として、次の各氏に感謝状が贈られた。

岩野新一(設計)、貝瀬建設(本体工事)、村松電業(電気工事)、見方謙策(暖房工事、前東京支部長)、

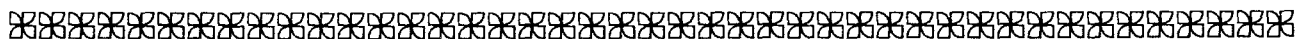
祝宴が始まると此所かしこと久闊を叙する盃の交換が酣々となり、町の愛好者による管弦楽団の演奏の音と共に友情の輪が広がっていった。午後3時、渡辺建夫前校長の万歳三唱で祝賀会の幕を閉じたが、先生の仲々迫力のある挨拶は誠に印象的であった。

〔三〕午後3時半、我々一同は地元に残る人を除いて再びバスの人となり加茂を経て、蕪三条より関越道にて帰京の途につく。途中前橋川口間が渋滞のため帰着地の本郷に着いたのは夜9時半を過ぎていたが車中は往きと同様又頗る賑やかであった。最後に終始安全運転に努め我々を無事に運んでくれた運転手さんの労をねぎらいお礼を申しあげた。

総じてこの度の80周年を祝う表敬訪問は支部として誠に意義深いものであり、今後東京支部団結の絆となるであろうし又実行委員会から賜った諸種の御高配に対し厚く感謝の意を表する次第である。

尚、前支部長見方謙策氏(日精オーバル株式会社社長)に対する感謝状は完成した雨天練習場に冬季暖房設備として、“遠赤外線放射暖房機”六基を寄贈したものによる。

(企画・広報部)



八十周年記念講演を聞いて

高7回卒 深見 洋子

「本日の講師、長賀一哉^{ちやうが かず や}先生を御紹介致します」校長先生の挨拶で登場した“同期の桜”氏の容貌は、昔とそんなに変わってはいなかった。成績優秀、真面目ではあるが、やや下向き加減だった彼がどんな風に話をするのか、と興味津々で待っている中に突然、彼の高校三年の時の出来事が鮮やかに甦った。

教室中央あたりの彼の席が、随分長い間空席だった事がある。一週間も続くと皆心配し始めて、やがて判ったのは、恋をして勉強が手につかず、学校へ来れないと言う事だった。相手は、下級生のエキゾチックな風情のあるお嬢さんで、私が中学の頃から、何て素敵な、と眺めていた人だった。彼の欠席は、二週間か、一ヶ月以上か随分長い事続いた。そんな事があったので、同期会に出席しなくても話題に上り、モスクワ滞在の頃は「オロシヤ娘なんか追っかけてないで、早く帰って来いよナ」等と話し合っていた。

気が付くと講演も大詰めにきていた。

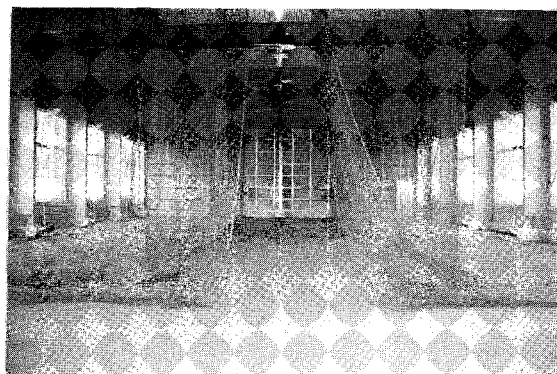
「世界の歴史では様々な民族、文化が栄え、亡び、正義が、狂気が支配して来た。21世紀に向けて日本人が一番心掛けねばならぬ事は、第一に歴史に関心を持ち、歴

史と云う縦の時間軸を複眼で見直す。次に思考の柔軟性である。現実と云う水平軸をも複眼で見、考える。即ち発想の転換、多様性と云う事で、一人一人が柔軟な脳で考え、複眼で見て行くと、大切な事、為すべき事、が明確に解って来る。そして、心の優しさである。国際社会に生きるには、他者の存在を認め、尊敬する広さ、優しさを持たねばならない。勿論、自然に対しても然り。我々には経済的发展と同時に、環境破壊に手を貸してしまった。それを反省しなければならない。そして、21世紀へ向けて、その若いエネルギーで、行動しなければならない」。

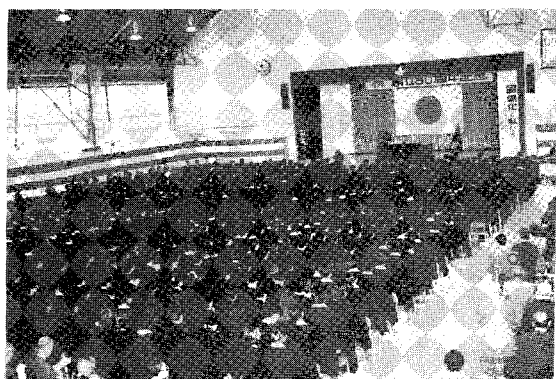
後日逢った時彼は、高校時代の、恋の病について、頭の中はエキゾチック嬢でいっぱい勉強の入る余地は無く、日々裏山あたりを徘徊していたと云う。卒業出来るかさえ危ぶまれた程で受験どころじゃなかった、と云う。一方的な、恋心で当然、下向きの日々だったよ、と云って笑った。でも、37年振りに逢った彼は、高校時代より素敵になっていた。“同期の桜”達が皆、当時より素敵になっている姿は、嬉しいものである。



新設された雨天練習場



練習場内部



記念式典



祝賀会会場

学校から礼状

◎創立80周年式典に出席して帰って来たら早速学校よりお礼の手紙を頂いた。出席の皆さんにも送られている事とは思
うが一応御紹介させていただきます。

同窓会 東京支部長 佐 伯 益 一 殿

平成3年10月31日

新潟県立村松高等学校創立80周年記念事業実行委員会

委員長 茂 野 敏 郎

校 長 佐 藤 義 雄

創立80周年記念式典・祝賀会ご参列の御礼

秋冷の候 ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、先に挙行いたしました本校創立80周年記念式典並びに祝賀会に際しましては、ご多用中にもかかわらずご臨席
を賜り厚くお礼申し上げます。

お陰をもちまして、諸行事も盛大に挙行することができ、生徒にも意義深いものがあつたと存じます。これを契機と
いたしまして本校をさらに充実・発展させるため一層の努力を重ねる所存でございます。今後ともご指導・ご鞭撻を賜
りますようお願い申し上げ、略儀ながら書中をもちましてお礼申し上げます。

ちょっといい話（其の一）

総勢三百人近い祝賀会場で、和気あいあいの談笑が
続いていましたが、東京支部若手の席へ現われた大
先輩の武藤さん。“やっぱり東京支部の会が良いな。
東京支部の会が良いよ”とおっしゃいます。そこですか
さず、10回卒の鶴巻さん、お酒を注いで差し上げなが
ら“黙っていても、酒はすぐ出ますしネ”に一同拍手。

ちょっといい話 其の二

同じ祝賀会場で、佐伯支部長は多喜のち々から、
東京支部に負けられない、と云われっぱなし。次々に
歓待を受け、お酒をすすめられていました。気がつく
と、小さなオチョコでビールを飲んでいらっしまし
た。一見ゴツイ支部長と小さなオチョコ、ちょっと
楽しい光景で、小っちゃなビールに御満悦の支部長殿
でした。

平成3年度 松高同窓会本部総会に出席して（8月17日）

今年も又、同窓会本部総会に出席致しました。8月17
日、静かな村松のたたずまいを懐かしみつつ、仲丁の実
家から、会場である“明月”迄歩き、そこで先輩の鈴木氏
にばったり会い、ちょっと早過ぎたからお茶でも飲もう
と城町から上町、仲町とブラブラ歩き、三村屋の喫茶室
へ。ひっそりとした店の奥には美人の奥さんがいて、珈
琲で時間をつぶし、そろそろ行こうか、と店を出ます。
本当に静かな町です。“そう、ここは私の同級生の実家で
笹ダンゴがおいしいのよ。この本屋は私が未だ村松に居
た頃入りびたって、安い文庫本を買って読みあさったワ。
勇五さんの会社？ ところがそうよ。”などと話しながら“明
月”へ戻ります。そこの女将は私の同級生で、一年おきに
彼女に逢えるのが楽しく、女将も又、時々逢えて嬉しい
ね、と云ってくれます。

会場に入るやいなや、今ではすっかり顔馴染みにさせ
ていただいた、吉原先生、滝沢さんに“こちらへいらっし
ゃい”と誘われ、今年は最初から同席させていただく事
となりました。その上、日本酒がお好きと云う、午腸園

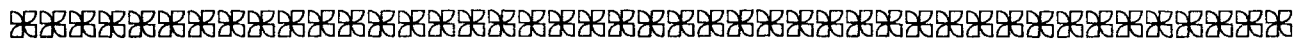
長先生ともお近づきと相なり、東京から駆け付けた甲斐
のある一日となりました。

今年はいよいよ松高創立80周年式典の年で、会の重要
事項は凡て記念行事に関する事の大詰で、着々と準備は
整いつつある様です。東京支部では当日の為に有志でバ
ス仕立て、参加が予定されて居り、式典が盛大に挙行さ
れる事を祈ります。

◎お願いが一つあります。本部の方にも名札をつけて下さ
いませんか。お世話になっていてお礼を申し上げたくて
も、地元に住きませんと著名な方でもお名前が分からず
又今更にお訪ねするのも失礼かと憚られ、困っています。
お手数かと思いますが、お願い致します。

何時もの事ながら最後の万歳三唱の音頭とりを依頼さ
れた佐伯支部長、会場を轟かす気迫のあいさつ、正に圧
感でした。

東京支部からの出席者は、佐伯益一、中村倉吉、見方
謙策、鈴木多喜男、佐久間英輔、深見洋子、鶴巻 浩の
7名でした。
(深見洋子)



「思い出のアルバム」から

汚れなき新雪のごと。清らかなる女生徒を導かれた懐かしの恩師たち。

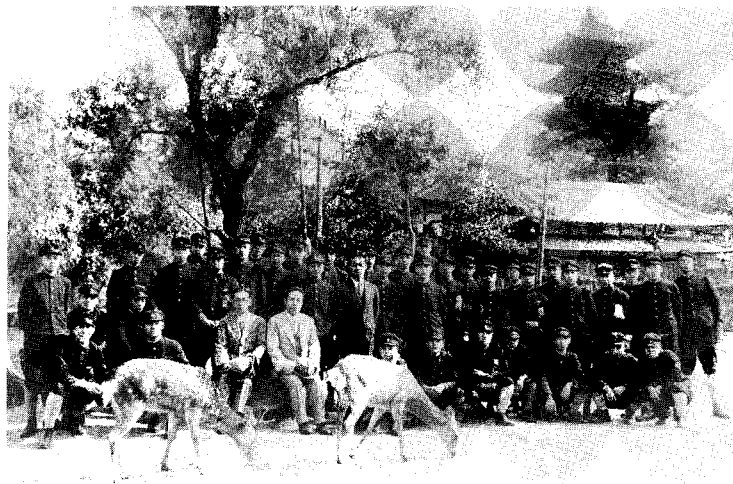
(昭和12年高女15回生卒業の折。福原平八郎氏提供)



後列左から、小柳（旧田代）耕治先生（図画）健在。川上長衛先生（理科，珠算）仲々真面目な先生でした。健在。高橋（旧向田）賢陳先生（歴史，地理）卓球部の部長であったのでエピソードが沢山あります。稲毛重晴先生（事務）昔々の陸軍記念日に日露戦争に出征された時のお話を下さったこと，よく覚えています。関根（旧前沢）定子先生（家事，割烹，裁縫，作法，茶花）和室に坐って小笠原流みたいにしつしつと掛軸をかけたり坐布団の出し方等いろいろと。健在。菅家コウ先生（音楽，体操）大分叱られたりして反抗した覚えがあります。宮波次郎先生（国語）徒然草の時間には退屈で，いたずらをしていたみたいです。

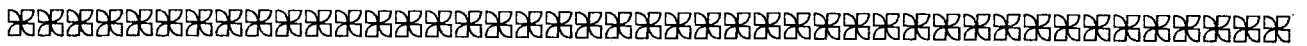
前列左から，金子義長（^{ヨシヒロ}太）先生（校医）でっぴりと貫録がありました。＊前松高同窓会長。吉武善暢先生（数学，習字）黒板一杯に書かれた代数の問題，段々わからなくなって数学が嫌いになった人が多うございました。吉田孫作校長先生（修身，公民，教育）＊道で逢うと面白い人間味のある方でした。福原一旧中学校の卒業式には必らず参列され祝辞の中で“祝すべし賀すべし”を連発。当時の流行語となった。一佐伯一。土田一郎先生（英語，国語）まことに悠長な感じの先生でした。吉野ハル先生（裁縫，手芸）沢山の宿題が出て姉に単衣の衿つけを手伝って貰いました。健在。（写真のお名前を問合せした折，熊倉芳枝さん（女19回昭16卒）から頂いたコメントを付記いたしました。

旧中21回生徒の修学旅行記念（昭和10年5月）

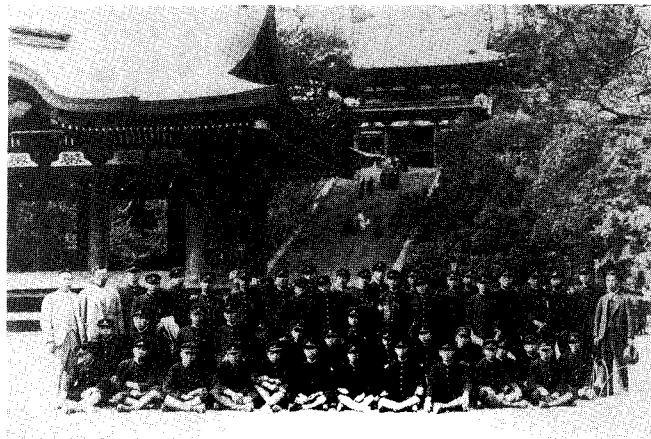


この場所は奈良公園か，それとも鹿のいるところをみると春日神社の境内であろうか。当時の臥龍第23号が手

許にないので，今一つはっきりしない。（引率は里見，本多，斎藤教輸）



旧中22回生徒の修学旅行記念（昭和11年5月）



この写真の裏面に「昭 11. 5. 5 鎌倉八幡宮前、午後 3 時頃」と書いてあった。5 月 3 日に村松を出発してから丁度三日目に当たる。全生徒とも両脚にゲートル^{あし}をつけているのが懐かしい。（引率は石田、笠原、斎藤教諭）

臥龍第24号から

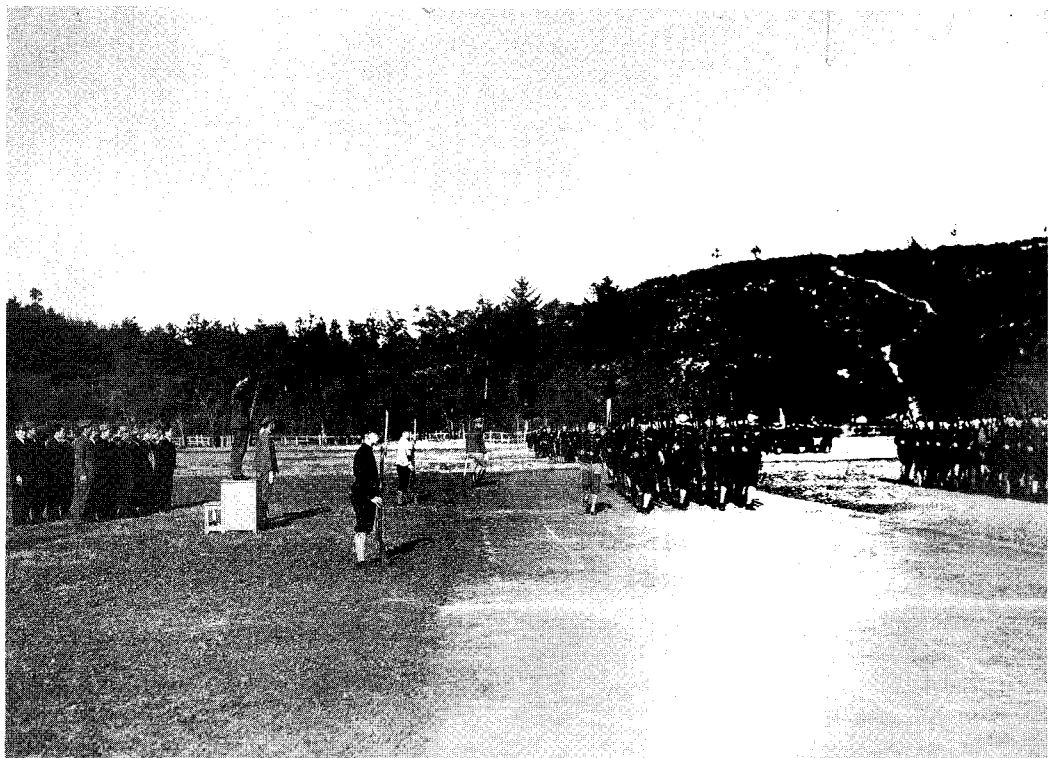
並木茂る立派な感じのよい参道を行くこと暫し。突如吾が眼前に展開せられたこれぞ弓矢の神鶴岡八幡宮。哀れ源家の若き將軍實朝の恨永久に残る大銀杏を左に見る。

参拝終って鎌倉宮へ。大塔宮をお祀する質素な白木造で誠に神々しい。宮の横の小道を行くと逆臣尊氏が為、約九ヶ月御座居され給ひし深さ一丈餘り廣さ八畳の土牢がある。當時を静かに追想し誰か涙なくしてこの牢を眺められよう。……（茂野記）

（㊦戦前の漢字と仮名遣いになっています）

（中28 斎藤朝之）

創立30周年記念閲兵分列行進（昭和16年11月）



（佐伯氏蔵）



お便りの中から

大空に散った同窓たち

(中28) 齋 藤 朝 之



昭和19年5月
スマトラ島
サバン基地にて



平成3年8月
自宅庭にて

前略 ― ところで、松尾吉信氏(中25回)が拙著「零戦に乗って」の本のことについて支部会報11号に述べられましたので一言ご説明させていただきます。

実は、杉崎栄二氏(中27回)と共に甲飛練(甲種飛行予科練習生、略称、予科練)第9期生として昭和16年10月に土浦航空隊に入隊した加藤政治君(中28回、彗星艦爆操縦員、20.4.24. クラーク防衛隊。ピナツボ山ふもとで戦死)と、10期生の岡村逸夫君(中28回、昭和17年4月、私と共に土浦空入隊、零式三座水上偵察機偵察員 20.5.24. 中支舟山島、偵察飛行中戦死、※芥川賞の滝沢(岡村)美恵子さんの実兄)12期生の小黒寿夫君(中28回、第四神風桜花特別攻撃隊、一式陸上攻撃操縦員、20.4.14 鹿屋基地発進全七機と共に沖縄の米機動部隊に突入戦死)の3人について、かねて同級生から戦死の時の状況を明らかにして欲しいと要望されておりました。そして5年ほどかけ戦史を調べたり、同期生の協力を得てようやく3人の状況がわかりました。これをその本の中にかなりのページを割いて述べました。

昭和61年に還暦を迎えたことを機に2年がかりで航空記録(全海軍搭乗員必携の飛行記録簿で生存者中私だけが持ち帰りました。1,097名入隊777名戦死でした。)を基に400字詰原稿用紙で1,200枚ほど書きました。製本屋さんが多過ぎるというので400枚けずり、差引き800枚で印刷にかけ、B5版の大きさを約300ページとなりました。土浦空、三重空、三沢基地(赤トンボ)、松島基地(九六式艦戦)築城空(零戦)大村空、岩国空、戦地(スマトラ、ペナン、昭南、パラオ、ヤップ、ボルネオ、フィリピン、スラバヤ)以上南西方面艦隊、三三一空、内地帰還、五航艦、二〇三空、大村、鹿屋、笠之原、出水、築城基地で終戦。これらを航空記録の暦日にしたがい、真実の出来事を書き、その中に同級生3人の戦死状況を明らかにいたしました。

※九六戦とは九六式艦上戦闘機の略称です。零式艦上戦闘機→零式艦戦→零戦。当時ゼロ戦とは決して言いま

せませんでした。戦後マスコミがつけたものです。

本は百冊作って昨年春に、元上官、同期生、松中同級生にすべて無料で配布しました。校長先生にも一冊差し上げました。多分教員室の書棚の隅に収まっているものと思います。

松中から甲飛練へいった者を調べてみましたら甲飛1期の笠原正敏中尉(中23回)から12期の小黒寿夫君まで11名、また海兵(海軍兵学校)へいった者は46期の山賀守治大佐(中1回)から74期の梅田哲夫君(中28回)まで8名でありました。海軍へいき、実戦に参加したものはもっと大勢いたのではないかと思っていたのですが意外に少ないので驚いています。先輩の甲飛練はすべて戦死、又は病没で大空を語れる人はひとりもおられません。先輩で零戦搭乗員はおられません。海兵70期の村川弘大尉(中23回)は加藤君と同様に艦上爆撃機「彗星」の操縦員でした。(20年2月、第二御盾隊、硫黄島周辺で米機動部隊に突入戦死)

全くあれ以来ながい年月が流れました。ただ感慨無量にひたるこのごろです。

〔参 考〕

◎甲種飛行予科練習生

- | | | | |
|-------|----|-----|-------------------------------|
| 笠原正敏 | 1期 | 23回 | 22 / 6 戦病死(偵察員) |
| 江花国吉 | 1期 | 23回 | 19 / 10 沖縄方面で戦死
(艦攻操) |
| 豊島商吉 | 2期 | 24回 | 17 / 10 ガダルカナル島方面で
戦死(陸攻操) |
| 河内正勝 | 2期 | 26回 | 死去 |
| 剣持三男也 | 8期 | 26回 | 死去 |
| 皆川三郎 | 8期 | 27回 | 19 / 6 マリアナ方面で戦死
(陸攻偵) |
| 杉崎栄二 | 9期 | 27回 | 死去 |
- ・航空戦参加者(1期～12期)は中28回の加藤、岡村、齋藤、小黒を含め計11名。

◎予科練には甲種、乙種、乙種(特)丙種の四つの制度



があった。

- ・甲種 旧制中学四年一学期終了を資格とする。
- ・乙種 高等小学校卒業を資格とする。
- ・乙種(特) 乙種志願者のうち、16歳以上の年長者を対象とする。
- ・丙種 海兵団に入団後の水兵や機関兵など一般兵科から選抜される。

◎村川大尉の最後については、肥田眞幸氏著「青春天山雷撃隊」(光人社版)に詳しく記載されており、昭和61年度の支部大会で同級の吉田松二郎氏(故人)により紹介され、同会場で特別価格にて販売されたことがある。

◎^{シンブウ}神風特別攻撃隊の名称について

昭和19年10月下旬。第一航空艦隊司令長官大西瀧治郎中将が第二〇一航空隊司令山本栄大佐に対し、零戦の体当り攻撃隊の編成を命じた命令文の中に初めて^{シンブウ}神風特別攻撃隊という名称が使われた。

鎌倉後期、二度にわたる蒙古(元)軍の九州来襲(1274年と1281年)にさいし、二度とも大風が吹き荒れてその船団を沈没させ、わが国を救った時のことを^{シンブウ}神風によるものとされてきた。その故事にあやかって、特別攻撃隊の頭に^{シンブウ}神風とつけたのであり、本居宣長の和歌から名前をつけて敷島隊、大和隊、朝日隊、山桜隊の体当り攻撃隊四隊に分かれていた。続いて菊水隊、若桜隊が追加され、いずれも零戦の胴体に250キロ爆弾をつけ人間もろとも敵艦に突っ込むものであった。当初は“しんぶうとくべつこうげきたい”と音読みにされ

ていたがその後いつの間か“カミカゼ”と呼ばれるようになった。

付 記

会報11号の“お便りの中から”で松尾吉信氏の書簡をご紹介したが文中、斉藤朝之氏の著書“零戦に乗って”に触れておられる処がある。その後斉藤氏から会報送付のお礼と、補足説明のお便りを頂いたが特に氏の体験と調査を基に大空に青春を捧げられた多くの先輩、同窓について詳しく述べておられる。母校の創立80周年を迎え、この内約10年は戦争期であり、私が中学一年の時に支那事变、五年の時に大東亜戦争が勃発した事を思えば、正に感、無量であり、会員各位に御紹介するのも決して無意義ではないと考える。

私事であるが昨秋、広島へ行った。足をのばして江田島を訪れ、旧海軍兵学校教育参考館などを参観した。参考館では遺書、遺品の壮烈さに感動、身の引きしめる思いがした。特攻隊の村川先輩の氏名をいち早く発見し、又兵学校入学者の一覧表、顔写真の中から懐かしい知人、同窓の顔も見つける事が出来た。館を出る時、館に向けて深々と拝礼をしてきたが、案内の自衛隊の士官の方が黙ってじっと見ていましたよ、と家内が言った。そしてこれはあなただけでしたと付け加えた。折があったら又訪れてみたいと思う。(佐伯)

お 便 り の 中 か ら

◎前略御免下さいませ

役員の方々ほんといにご苦勞様に存じます。学窓を後にして早60年が過ぎました。この間いろいろの事に出逢い、今思い出しても楽あり苦もありの時を無事過ごして来た事を回想して居ります。今更時の流れの早い事を痛感すると同時に人生には二度ないやり直しの出来ない一生現在に全力投球で生き度く存じています。77歳気付いた時はおそかった。残念。

(新保みわ様(旧高女8回) 大会欠席通知に寄せて)

◎いつも御案内頂き有り難うございます。いつの日にか

出席して盛大な支部大会に参加させて頂きたいと思っています。

(伊藤淳一氏(旧中33回) 寄付振込通知に寄せて)

◎去る6月1日の松高同窓会は失礼いたしました。さぞ大勢の皆様が久方ぶりに集われて懐かしい思い出や現況を話しあったりで楽しい一日でありましたでしょう。来年は同級生共々声かけ合って出席したいと思います。松高も80周年記念事業も行われ、その報告も楽しみに待っております。猛暑の折、皆様ご自愛の程を

(松本豊子様(高6回) 支部会費振込通知に寄せて)

懐 旧

(その一) 力作ふたび 第二弾

東京支部会員である先輩の中学在学時代の古い作文が広報部に寄せられた。何れも臥龍誌に載ったり、旧師が保管していたものであるが誠にすばらしい力作である。御本人の承諾を得て紹介することとした。

“松 城”

五年 小田 恕哉

塵の巷を遠ざけて雲立ち迷ふ白山の麓に立てる松の群、見よ凌霄の気を含む。……風雪野山に荒るる時色さえ変えぬ常磐木の強きは誰が心ぞや……八億亜細亜の民率い……海原遠く漕ぎ出でん……これぞ我等が務めなる。……嗚呼何と頼母しい校歌ではないか。

これほど立派な校歌が他にあるか。自然に恵まれた景色——白雪皚々たる白山の麓に、緑滴る松に囲まれたその名も松城嗚呼松城、秋風も終りに近き烈風肌を裂く師走。離すまいはなすまいとすれど一風毎にはらはらと葉は散り行く。赤き北風益々烈しき時ありとあらゆる濃厚な木々は彼等北風と知らず識らず合体し、唯一人晩節を全うせんとする松も誘惑す。然れ共萬木北風に靡くを慨嘆しつつも雄々しく一人端然として北風を嘲笑す。

萬木春又来りて咲出で晩節を全うせし松を笑ふ。人々又松の存在を認知せず。一度北風来ればここに始めて松の偉大なる存在に会ふ。他木の優美を羨まず唯黙々として自分の道に進み行く。嗚呼松も又偉大ならずや。

萬木幾度か春有りて美を競ふ。然し人間一生一代の間に春幾度ぞ、嗚呼惜むらくは唯一度、嗚呼人間宜しく松の如く節を全うせよ。

桜の如く大いに学ぶべき所他木（松以外）にあり。然しながらある節操堅き松に我等の学ぶべき所大にあるではないか。

今や北風荒み悲しくも萬木彼に弄せられ春再び立つ能はざらしむ、唯松の巍然として彼を睨するあり、嗚呼何と雄大なる。

其松の群に圍繞せられ彼等の懐に安らげく眠る我校。我等六百の健児。知らず識らずにかの母たる松に感化せられ危険思想、器々と飛来せる中に勇敢に反抗せずして可ならんや。

松に於て然り、其の懐に眠る我々何ぞ奮闘せずして可ならん。そこに於て始めて各実共に松城にふさわしからん。

名有りて実なければ我々より松城の名を奪え、松城の

名奪はれて我々黙々として居られんや、今や松城の名は奪はれんとして居る。

否売らんとして居る、彼の松は夜々我等の不甲斐無きを嘆く。白山は今や嘲笑を以て我等に対す。姦賊今や松城に猛然として突撃を加ふ。中には敵に内通せんとする輩現はれんとして居る。我々六百奮然として立たざるべからず。嗚呼松城、松城、全国に賊軍はびこるとも往時の楠公の籠りし千早城の如く敢然として奮起せよ、我等を照らす太陽は笑ひ、月姫は微笑し松は感謝に泣く時これこそ我等の満足する時に非ずや。

嗚呼松城、松城、

聖天子を守り姦賊を平定す勇者たれ。

嗚呼松の群、松の城、松城。嗚呼松城

(旧中16回卒、当時昭和5年、5学年、東京支部会員、本文は昭和6年5月28日発行の村松中学校学友会会報第18号より抜すいた)

“作 業”

第三学年乙組40番 堀 哲二

作業ハ筋肉労働デアル、作業ト云フトスグ我々ハ草取りヤ掃除ノ事ヲ思ヒ起ス、草取りヤ掃除モサウデアルガ修養日記ヲ毎日書クノモ又風呂ノ水ヲクムノモ或ハ工場デ働ラクノモスベテガ作業デアル。我々作業ノ時間ガ特別ナクトモイツデモ作業ガ出来ルノデアル。我々作業ヲシテ修養シ、又我々ノ心ヲネルノデアル作業ヲシテ汗ヲ流スノハ非常ニ尊イモノデアル。人間ハ汗ノ出タ後ノ気持ハ何トモ云フコトノ出来ナイモノデアル。作業中苦ルシイ事モアルダロウ、ソレヲ我慢シテ或ルーツノ作業ヲヤリトゲルト何トモ形容デキヌ喜ビガアルコノ喜ビハ非常ニ尊ムベキモノデアル、向上会デハ美化作業ヲヤルコトハ自分ノ心ヲ奇麗ニ磨クノダトイッテ作業ヲヤル。コレハ大変ニヨイコトダト思フ。

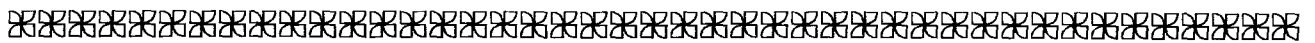
(旧中24回卒、当時昭和11年3学年、東京支部幹事)

“作 業” (除草編)

第三学年乙組 芳原英男

あゝ除草!!

我々一同は月水金に校庭及びその附近の草取りがおこなわれるのであるが僕等は皆いやがらず毎日(月水金)真剣に真心をこめて除草をやるのであるが、いやがってやらない者などがどうしてあるはずがあらうか、いや決



してそんな者はない。自分達の学校で毎日楽しんだりく
るしんだりする所の校庭の草を取るのにいやがるはずが
ない。学校を愛する上からでもある。僕等にとっては除
草が一番大切なものであると思ふ。例えて云ふならばも
し本校に他の学校の先生がお見えになったとして、もし
草がぼうぼうとしていたならばどうする、他の学校の
先生の第六感が頭にひびくだろう、何んだこの学校は
と思はれ、いくら中がピカピカと光っていようが外でさえ
もこんなであるのだから内はなほ悪いだろうと思はれて
一度に本校の名誉にかかわるのである。こう云ふ事を感
じてみても僕等にとっては除草ほど大切なものは無いと
いっても良いくらいである。

僕はいつも一生懸命にやっておるつもりであるがなほ
一そう真剣に真心をこめてやらうと思ふ。あゝ除草、大
切なる除草。

はめよ除草を!! 讃えよ除草!!

(旧中24回卒、当時昭和11年、3学年、東京支部会員)

“三十周年頌歌”

五年 佐伯益一

臥龍が丘の松の葉が 更に緑を添へる頃 松城健児の
意気高く 晴の式をば今日挙ぐる

緑の丘に包まれて 我が学窓に学びつゝ 幾星霜も夢

懐 旧

(その二)

——「沈勇」の額に——

「沈勇、賢龍書」と書かれた大きな額が校長室に掲げら
れている。もと講堂に掲げられてあったとの事。傷つい
てはいるが、筆太く、対面していると不思議に落着き、
力が与えられる。当時、広島文理科大学長、吉田賢龍先
生の書である。先生は本校創立20周年記念講演会に講師
として招かれ「人生の双翼」と題して講演されて昭和6
年10月25日より翌26日に村松を離れるまでの間に揮毫さ
れたものと思われる。先生は「人生は幅、長さ、厚さの
三者が揃って完成される。長さとは寿命、幅とは働き、
活動すること。厚さとは自身の心の奥底に入ってゆく事
自分自身の心の中で生きる事だ」と述べられ、又「我々
はどんな事に遭遇した場合でも静かに自分に呼びかけて
みよう。そうして得られる物こそ誠の一字である。再び
云うが私共は重大な事件に出会った場合、いわゆる反省
を重ねてこれを処理しなければならぬ。」と結んでいる。

の間に 三十年は巡り来ぬ

春は桜の愛宕山 陽炎燃ゆるフィールドに 青春の血の
高鳴りし 時も積りて三十年

樹々に蝉鳴く日盛りの 焼けたる道を蟻が行く 其の
暑さにも堪へ忍び 悠々越えし三十年

千草に鈴虫のすだきつゝ 時は進みてたえ間なく 夜
更けて出づる窓の月 書よむ空を照らすなり

越後名物大雪の 身を切る様な極寒を 裸足で過す者
もある 我が松中の意気を見よ

松葉に中の字を入れて 意二こゝに三十年 嗚呼秀麗
の地を占めて 建つよ貴き我が母校

我が国未曾有の非常時に 三度この道元がけて 校風刷
新日に進む いざや讃へん我が母校

見よ黎明の空明けて 臥龍が丘に昇る時 正義破邪の
剣とる 松城健児の意気高し

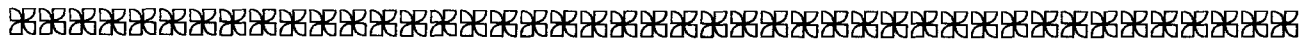
栄ある歴史三十三 母校の名を振りかざし 希望の鐘
の鳴る中に 世界の空に遠飛せん

友よ忘るなこの年を 三十年を懐古して 全校生徒が
謳歌せん 我が松中の校歌をば。

(当時昭和16年5学年、17年3月発行の臥龍誌第29号、
創立30周年記念号より)



この説明は第23代校長 法性昇氏が昭和63年在職時に
同窓会会報“松城”に寄せられた論文から要旨を抜すいし
たものである。



懐 旧 (その三)

今ここに一冊の校友会誌がある。

昭和7年3月発行の旧村松中学校創立20周年記念号である。一読するに特に初代校長故林栄太郎氏の寄稿論文

は実に感銘が深い。長文である故一部を抜粋してご紹介するが生徒諸君の奮起、同窓各位の団結への一助となれば幸いである。

村 松 中 学 校 の 昔 を 偲 び て

初代校長 林 栄 太 郎

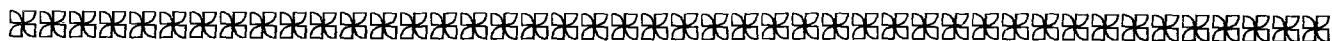
今を距ること二十年の昔、本校が創立になった当時即ち明治四十四年の頃は本県下の中等学校は、殆ど各郡に分布された状態で本県の中等教育は其の全盛期に達したかの觀があった。之より先き村松には既に県立の工業学校が置かれてあったが、併し県内に唯一校の実業学校としては其の所在地が偏しているといふ理由の下に県当局は之を本県の中央部なる長岡市に移転して其の代りに村松には中等学校を設置することが妥当なりとの見地より遂に明治四十三年に工業学校は長岡に移転され、其の跡に村松中学校が新設せられたわけである。村松町は工業学校を失ったが、更に中学校を得たので地方文化の發展上にも町家繁榮上にも何等の損得はなかった。加え村松には歩兵三十聯隊がある關係上、由來將校の子弟教育の便宜上の方からも工業学校の存置よりは寧ろ中学校の置かれた方がより以上に必要に感じられてゐたので一層本校の設立が促進せられた有力な動因であつたと思はれた。(中略)

本校は本年創立二十周年となり卒業生は正に千名に^{なんな}乗んとしてゐる。併し本校の校長は余が創立当初から五年余の勤続以来、現在の鈴木校長まで六代の多きを数へた。少々交迭が頻繁に感じられる。余の次に和田校長が四年足らず勤続されたのは長い方であつた。其の他何れも々の聞えありし校長ばかりであつたが、惜むらくは多くは勤続年限が甚だ短い感じである。然るに現校長鈴木氏は既に勤続六年に及ばんとす。実に学校のため此上もない幸福と云はねばならぬ。校長の交迭は自然教職員の異動が伴ひ易いもので教職員の異動は生徒の教養上多大な損害を招くことが多い。^{ねがひ}希くば現校長始め教職員各位は永く本校に勤続して貰ひたいものである。今年の十月の二十周年の祝賀式は非常に盛大であつたとのことで余は参列の都合を得ざりしも其の状況を詳しく後より承ることを得て衷心より^{よろこ}歓んだのである。之れ偏に現在の校長始め教職員各位の熱誠なる努力の結果であつたと云はねばならぬ。又卒業生諸君の母校に対する深厚なる愛慕の至情があつて然らしめたものと思ふのである。茲に本校

は二十年の齡を重ねて一個人ならば十年以上に達したわけであるが、本校の二十年の歴史は光彩の県下に輝くものが多々あるやうに思ふ。第一期第二期の卒業生より県會議員既に三名を出した事など他に類例が少い。其の他博士も数名出で領事官あり海軍大尉あり陸軍大尉中尉あり大学及び専門学校を卒業して高等官に上りしもの又多数あり実に多士済々を以て本校の歴史を飾れるもの豈祝福せざるを得んや。庶幾くは本校の校運が将来^{ます}彌々隆盛に向ひ多々益々人材の輩出を來たして北越健男児の雄を以て起ち本校の名声を愈々揚げられんことを。現在の職員各位並に生徒諸子に期待して已まざるところである。(後略、寄稿論文より)

本校創立後余輩の在任中、聯か本校の実績に就いて特に歴史に一記録として遣されたき一事は、大正三年四年に^{わた}涉りて本県下中学校に試みられたる学力比較考査と称する生徒の學術競走試験に於て、本校第一回の卒業生が五学年在学中初回の比較考査に優等の成績を得、本県各學校第一等の地位を占むるを得たる本校の一大名誉なりき。更に第二回即ち第二期の卒業生も亦優等にして新潟中学校と相伯仲し第三回以後県下三位を下らざる成績を示したり、是れ全く當時の教職員各位の指導に熱心なると生徒諸子の奮勵勉学の他ならざりき。ここに特記して後進の諸君に伝へんとす。(中略) 嗚呼二十年の昔を追懷すれば、夢の如く幻の如く人変り世移りて舊時の^{おもかげ}影は尋ぬるに由なからんも、二十年来鍛へられたる校風は屹然として聳ゆる白山の高峰と其の高きを競ふものあり。職を本校に奉ぜらる、校長以下職員各位は、此の光輝ある歴史の下に層の御精勵ありて益々校運の隆昌に^{じんすい}盡瘁あらんとす。又苟も本校の生徒たり卒業生たらん諸君は本校の特色ある教養の旨を守り、益々學徳の修養に努め人格の向上に志し、人生の意義ある目的を達成して、社会の木鐸となり国家の忠良なる臣民となりて愈々母校の名に負かざらんことを期せらるべし。

(創立二十周年記念祝辞より)



クラス会便り

◎高6回卒3年1組（昭29）

8月17日、鹿瀬町キリン温泉“ホテル福泉”にて一泊のクラス会、出席、13名、3年ぶりの会合（幹事、佐久間、沢出）

◎旧中27回卒（昭17）

- 6月11日午後5時、本厚木飯山温泉“元湯旅館”にて一泊の在京クラス会、出席は東京在住7名、新潟、五泉、津川より各1名の計10名（幹事、熊倉）
- 11月7日午後4時、田上町、湯田上温泉“ホテル小柳”にて一泊のクラス会、出席、20名、翌日は“石油の里”中野庭園見学後散会。来年は村松が幹事の予定（幹事、石川、白倉、加藤）

◎高18回卒（昭41）

10月26日、東京、“ホテルニューオータニ”にて午後5時より7時まで、出席は男女併せて40名（幹事、

青木、笠原、石井、岩野、菊野、他）

◎旧中25回卒（昭15）

10月27日、母校80周年記念会終了後、学校町“横山旅館”で。出席16名（幹事、松尾、吉田）

◎旧中15回卒（昭5）

11月1日、田上町、湯田上温泉“ホテル若竹”で、出席5名

◎旧中24回卒（昭14）

7月22日、鹿瀬町、角神温泉“角神ホテル”にて、東京より堀、松田、芳原氏他多数出席の上、一泊クラス会。

◎高7回卒（昭30）

11月23日、五泉市咲花温泉“ホテル平左エ門”で高校3年3組のクラス会（幹事・森田、高橋、落合）一泊で開催、23名出席。次会は三年後の予定です。



旧中27回生の記念撮影

〔赤山会例会〕

旧制村松中学校の有志の集りである赤山会の秋季例会は11月9日（土）午後1時より、私学会館（アルカディア市ヶ谷）で開かれた。定刻堀幹事の司会により、亀嶋会長のあいさつに続き、母校創立80周年記念式典に参加した者を代表した佐伯支部長より経過報告があった。次いで見方謙策氏より平成2年秋、勲四等旭日小授章を叙勲された元赤山会会員、現新潟放送代表取締役会長の梁取清助氏（旧中23回卒）に対し紹介と共に祝福のあいさつがあり、同氏より謝辞があった。話の中で、“新潟にも先輩や同窓がたくさん居る。是非、新潟にも赤山会を創りたい”と母校同窓に対する熱意の程を示され一同を喜

過日はお世話になりました。われわれ離郷組にとり故郷とは、風景、思い出、そして旧友と心得ています。三点セットのクラス会は楽しかった。白髪、アメ頭と夫々年令相応の変化はありますが、語れば往時にタイムスリップ。この会合はいつまでも続けたいものです。冬が急ぎ足でやってきましたが風邪などひかれぬ様、御自愛を祈ります。（27回卒、中野 博）

ばせた。

懇親会の水尾広吉氏（中13回）の乾杯の音頭で始まり会場は昔の思い出などで一段と賑やかになり午後4時、恒例の旧校歌の大合唱を元気一杯熱唱。次の再会を期して散会した。

次回は平成4年4月25日、当会館で開く事が幹事より発表された。尚、当日の出席者氏名は次の通り、敬称略（水尾広吉、村田泰次郎、横山信夫、小田恕哉、千代国一、見方謙策、横松宏平、佐久間精一、藤田勇、亀嶋謙梁取清助、堀哲二、芳原英男、小浜穀郎、吉田正平、宮健三、佐久間二郎、武藤三郎、佐伯益一、吉田公男、西山莊平、斉藤朝之、奈良泰夫、松尾吉秋、瀬倉久男、関八十一、加藤三代太）以上27名。

笠原昇先生逝く

“すっぽん”の愛称で永年親しまれてきた笠原昇先生（旧中第10回、大正14年）が8月11日、入院先の南部郷病院（村松町）で午後0時20分、肺炎のため急逝されました。

告別式は同13日午前10時から自宅に於て執り行なわれ、町内在住の教え子、教育関係者、松高同窓生を始め、県柔道連盟会長、下越地区柔連会長、村松柔道クラブ代表等、多くの方々が参列され厳粛の内にも盛大であったとの事です。ここに先生の生前の御遺徳を偲び、御冥福を祈り、謹んでお知らせ致します。享年84歳。

（略歴）明治40年村松町生

昭和4年3月、東京高等師範学校武道科卒業後、沖縄県師範学校教諭として赴任、翌昭和5年4月より旧制県立村松中学校教諭として昭和22年3月まで17年間、母校にて教鞭をとる（体育、生理衛生）、昭和22年4月より千手、十全、安田、栃尾、五泉各新制中学校校長を歴任、41年3月退職、以後自適、県柔道連盟、社会教育関係に尽力される。従五位、勲五等瑞宝章、講道館八段。

住所は村松町仲丁。電話0250-58-7697

相続人は昭和33年高10回卒の笠原光雄氏。

笠原先生を想う

（中27回）佐伯益一

笠原先生と私とのお付き合いは中学校の五年間よりも戦後の方が長かったようだ。戦後、柔道が復活し、東蒲原郡にも柔道連盟が結成され私は役員となった。後日、県柔連の評議員にもなったが、当時二段であった私に先生は二段では肩身がせまかろうと三段に推薦して下さった。折角の御厚意にもかかわらず、私はあまり会には出なかったが、県下の昇段審査会では随分と先生にお世話になった。合格すれすれの麾下会員の推薦をお願いすると心よくその労をとって頂いた。毎年、津川出身の西郷四郎先生（富田常雄の姿三四郎のモデル）を偲ぶ新潟県下越地区と福島県会津地区との親善柔道試合が津川、若松と交互に開かれていた時、私は帰ろうとする先生を何時も引きとめては一杯飲んだものである。本年8月の母校同窓会総会に出席する時、前から笠原先生、病い篤



昭和17年3月、卒業に際し記念に書いて頂いた色紙（佐伯蔵）

しと聞いていたのでお見舞を予定していたが村松町に着いた直後己に亡くなられたとの話を聞いた。お会い出来ず誠に残念であった。中学時、^{あてみ}当身の稽古があった。股間の肉塊を釣鐘と云うと教わり、足蹴りの練習中、私は大声で“つりがね、すっぽん”と叫び、みんなを大笑いさせた事がある。ニコリともしなかった先生は乱取が始まると“ちょっと来い”と私を呼び、たちまち寝技に入る。そしてアッという間にオトされてしまった。厳格な内にもそういう事の言える空気、何らかの親近感があったのではなかろうか。いろいろと懐しく思い起す事が多く、只管、御冥福をお祈りするのみである。合掌

（元東蒲原郡柔道連盟理事長）

笠原昇先生を偲ぶ

（中25回、昭15年卒）松尾吉信

中学校1年の初め、毎日繰り返す「受け身」の単調さに飽きて、退部を申し出た私に笠原先生は「よし」とあっさり一言。その後再入部を申し出た時もまた、「よし」と簡単に認めてくださった。

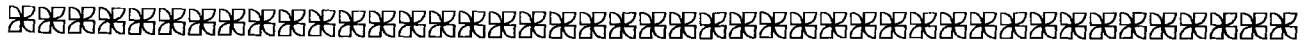
こんなことから、以後は練習を怠けるわけにゆかず、そのうちに興味も生じて熱心になったからでもあろうが正課の柔道で先生が示範される際には大抵「受け（投げられ役）」をつとめさせられて愉しかった。

先生は授業と部活動では厳しかったが、所謂威圧感ではなく、穏やかに諭されたものであった。先輩相伝の先生のニックネームを私達も用いたが、私達は別に「ボン

様」の呼称を先生に奉った。敗戦直後の村松柔道クラブ創設以来、公私両面にわたりお世話に与かった私は、現在、胸に穴のあいたような寂しさを覚えるが、松中時代のあれこれ思い出しながら、先生のご冥福をお祈りしている。（村松柔道クラブ会長）



故 笠原先生



寄稿

ソ連北欧視察紀行

(中13回) 水尾 広吉

前言 私は9月5日成田出発モスクーに向い、更に北欧5ヶ国を視察して同月17日帰国した。以下はその旅行記事の概要である。

1. ソ連国民の勤務制度の実情

9月5日朝、日航機で成田を出発北に向い、ハバロフスク上空で西に変針し、バイカル湖上空を経て、モスクーに向い直進、シベリヤの大森林地帯及び、ツンドラ地帯上空を飛んで午後5時頃、モスクー飛行場に着陸した。降りるとすぐ専用バスでホテルに向った。道路は道幅が広く(歩道を含め約50米)、その上自動車数が少いので交通渋滞は全然なく、約50分(時速約100キロ)でホテルに着いた。部屋の入口で婦人勤務員から鍵を受け取り部屋に入った。夫婦2人で1室を与えられた。丁度夕食の時間だったので1階に行き、スープから始まる正式のコースを食べた。オーケストラの伴奏付きだった。食果物も十分だった。食事は粗末だと聞いていたので一寸意外だった。次に勤務員のサービス状況を述べよう。宿舍の建物は高さ・幅いずれも約20メートルで各階毎に主として婦人勤務員が2名宛配置されている。従って勤務員の合計は40名である。次にソ連研究の第1人者47期完倉氏の研究によれば、経理関係は別に三交代制の由であるから、勤務員は合計は80名となる。自由主義国家側は6名で済むからソ連は自由主義側の13.3倍に相当する。ゴルバチョフのペレストロイカは正にこの弊風の打破を狙っているのである。しかしその打破は容易のことではない。なぜならば、彼等は永年党员という権力の上に坐って働こうとしないからである。而も前述の勤務員は総務系統の一員であり、経理関係者は別系統に属する人員であるから、互いに疵いあってその非を黙認しているのである。次に社会主義国は「完全雇用」制であるから、人口の増加等を見越して職場を多く確保したいという必要性がある反面、その数を合理的に制限しなければならないという必要性もあって、その調整はなかなか難しい。次にモスクー市内を視察して先ず驚いたことは、到るところに買物の行列があったことである。しかも大の男がたたくさん並んで、コッペパンを左に抱えて、右手でV字を描き得意の表情を示している。これは一体どうしたわけかと分析してみると、彼等はノルマさえ達成すれば、それ以上働く必要性はないという考え方の方である。何故ならばノルマ以上働いても賃金は同じであるからで

ある。ゴルバチョフはこの矛盾を解消するために、ペレストロイカを推進しているのである。次に私共の一流のホテル内で、食事の時公然と闇取り引きが行われているのには驚いた。ソ連に珍味チェビアは勿論、ゴルバチョフのこけし、スカーフ等が盛にドルで取引されている。聞いてみると殆どすべて生活が苦しい由、思わず苦笑した。政治の貧乏がここまで彼等を堕落させてしまったのかと思うと同情を禁じ得なかったと共に、生活物質不足の深刻さをみせてくれた事だった。

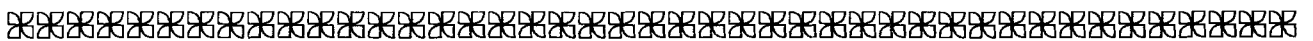
2. モスクー市内の視察(9月5日)

「市内の視察」は、朝、船に乗って観望式がやり易いようにできて、る。レーニン廟の真中であって、ネギ玉風の聖像を持つレーニン宮殿が相対して、聳え立っている。われわれはクレムリンの心臓部と、すべき最高会議の建物の裏道を歩いた。内部には入れなかったが、ここまでは入れたのは幸運であつた。また多くの優秀を出したモスクー大学は、クレムリンの隣りの閑静な森の中にあつた。

帝制ロシアの首都、共産主義革命の故地であり、また第二次大戦中ソ連の要塞となったこの都市の歴史は、ロシア近代史そのものである。70年の歴史を巻き戻し、いま旧名に復したこの都市は、どんな新しい歴史を開くのか?。9月6日ソ連最高会議はレニングラードをペテルブルグと改めた。われわれ一行は改称当日、この地を訪れた最初の日本人だった。街は喜びにあふれていた。午後エルミタージュ美術館を参観。絢爛豪華な内装の部屋の数々をみて、旧帝政時代の栄華を偲んだ。この美術館は、パリーのルーヴル美術館に次、て世界第2位の規模の由。次にロマノフ王家葬儀の場所をバスの窓から眺め、改めてロシア革命の意義について思ひを馳せた。1917年のロシア革命から今年8月の「新ロシア革命」までの74年間、光と陰、理想と現実が複雑に交錯する壮大な実験に対し、ゴルバチョフはどのような改革をする積りなのか。9月7日妻は友人と共にオペラの本場でバレエをみた。その素晴らしさは流石であった由。

3. フィンランド及びノルウェーへ。

9月7日われわれはモスクーを離れ、国際急行列車で、フィンランドに向い、移り変わる風景を楽しみながら、午後5時頃首都ヘルシンキに到着した。途中造船所が多く、盛んに新造船を作っていた。この国は第二次大戦で



ソ連に破れたが、船で賠償した由。

翌日勇将シベリウスの碑等を観光、また毛皮が安かった。次いで豪華客船シリアライン号（総屯数約5千屯）旅客収容数2,500名に乗って、1晩ゾグネフィヨールドをゆっくり北に向い航行し、朝食後ストックホルム着、下船して昼食。魚料理で拳程もある伊勢蝦、鯿、鰻の燻製、塩で一寸味をつけた鮭の刺身等には、舌鼓を打った。何れも日本では得難い料理である。ゾグネフィヨールドは、ここから船で約1時間の行程にある氷河端末に源を発するもので世界最長のものの由。またストックホルムは高緯度のため、白夜がみられると思ったが、天候不良で期待外れ。オスローから登山鉄道で溪谷を通りフロム着。

コペンハーゲンからパリーへ（9月16日）

正午スカンジナビア航空機でここを出発、パリーに向い、午後6時同地着。ここで日航機に乗り換え、午後8時出発帰国の途につき、9月17日午後3時成田に着陸した。

4. 北欧4ヶ国の対核戦争準備

北欧5ヶ国が何れも中立国として、対核戦争に非常に

努力を払っていることは、御承知の通りであるが、その徹底した対策には一驚する共に、敬意を表する次第である。例えばオスローでは、教会が地下に約500人入れる礼拝堂を設け、厚さ6～7ミリの対震ガラスをはめ込んで明りをとっている。また個人住宅に対しても政府が補助金を出して、同様の施設を義務付けている。次にオスロー駅では、玉子位の大きさの砂利を屋根に約10センチ程敷きつめてある。これは原爆対策として洵に有効である。彼等は核戦争は4～5年続くものと予想している。又北欧諸国は10年に1ミリ程度隆起している由で、我が国とは比較にならない程好条件に恵まれており、羨ましい限りである。

結言 最近テレビで毎日民族問題が、大きくとりあげられている。米国・ソ連をはじめ、英国、ドイツ、フランス、中国、印度、ユーゴ等何れも同様である。然るにわが国にはこの問題はない。それは日本が世界で只1ヶ国単一民族国家であるからである。私共はお互に日本国民として生れたことに対して、衷心から感謝したいと思う。

俳句 (中26回) 福原平八郎

○青春は余白のごとき想い鼓

○春惜しむ青春の図譜臥龍山

◎雪沓に帰省の夜を躓けり

◎印の句は住宅管理協会東京支部ユウアーラウンジ俳壇で特選に選ばれている。

「評」ふるさとの雪国への帰省。久しぶりにはく雪沓に足がなじまず夜道につまづく。故郷へ急ぐ作者の弾んだ心が足をもつれさせたのだ。岡田貞峰選

ちょっといい話 (その三)

燕三条などという思わぬ所で、声をかけられ、驚いて振り返ると先輩の伊藤勇五さん。村松で飲もうという事になり、酒断ちも解けたのか、とハッとした或る夜、小奇麗なバーの止まり木での話です。

酒断ちの願を立てて間もなくの頃、色々思い叶わぬ事も多く堪り兼ね、某日深夜、車を飛ばして一路東京へ。自宅へ着くやいなや“酒をくれ”と云ったそうです。奥様が咎めたので、“ここで飲んで誰も知らないだろう”、とつい言ってしまった。すると奥様いわく、“誰も

知らなくても、御自分が知っているでしょう”。そして、黙ってサイドボードを開け、見せられたのは、並んでいる珈琲好きの奥様の封印された珈琲だったそうです。“貴方の酒断ちが解ける迄、私も珈琲を断ちました”。それで伊藤さんの酒断ちは願は、挫折する事なく済みました。問題は多くあると思いますが、この上は、二十一世紀に通有するゴルフ場が完成致します事を、不動明王様にお祈りいたします。(深見)

◎平成4年度支部大会開催のお知らせ

平成4年度(第35回)松高同窓会東京支部大会を下記により開催いたします。お誘い合せの上、多数の方々のご出席をお願いいたします。

記

日時 平成4年6月6日(土)午後3時(午後2時より受付)

会場 上野しのばず池畔 池之端文化センター

(平成3年度の会場と同じです)



謹んで新年のお慶びを申し上げます

東京支部長	幹事・今井 正	幹事・寺山 征子
組織委員長	・渡辺 八郎 高2回卒	・小島 典子 高10回卒
・佐伯 益一 旧中二十七回卒	・関 孝世 高三回卒	・田代 宣雄 高十一回卒
事務局長	・中村 倉吉 旧中二十三回卒	・鈴木 大 多喜男 高四回卒
組織副委員長	・伊藤 勇三 三十三回卒	・大 住 一 高四回卒
・客 藤 和 男 旧中三十三回卒	・二 三 達 衛 高五回卒	・三 達 衛 高五回卒
広報部会長	・沢出 起 允 高六回卒	・八 木 又一郎 高七回卒
企画部会長	・佐久間 英輔 高六回卒	・深見 洋子 高七回卒
・芳賀 健一 旧中三十三回卒	・塚 田 勝 高八回卒	・片 柳 ムツ 高八回卒
幹事・堀 哲二 旧中二十四回卒	・木 村 孝子 高八回卒	・山 西 愈佐子 高八回卒
・中村 雅明 旧中三十三回卒	・石 黒 四郎 高九回卒	・大 橋 貞夫 高十回卒
・小林 早月 旧女二十五回卒	・鶴 巻 浩 高十回卒	・眞 水 道子 高十回卒
・岡本 和子 旧女二十五回卒	・青 木 猛 高二回卒	
・篠川 恒夫 高二回卒		
・青 木 猛 高二回卒		



佐藤さん



笠原さん

八月三日より幹事に就任いたしました。よろしくお願ひいたします。

幹事・佐藤 玲子 旧女二十五回卒

・笠原 静夫 高十八回卒

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方に会報12号をお届けいたします。皆様方のご協力によりまして、会報も今回で12号となりました。今号は母校創立80周年記念関連記事が間に合い、関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

なお、皆様のご寄稿をお待ちいたしております。特に各学年クラス会開会の御連絡は同窓会の連絡を図るためにも極めて重要なニュースでありますので、是非事務局宛御一報下さるようお願い致します。（広報部）

広報部スタッフ

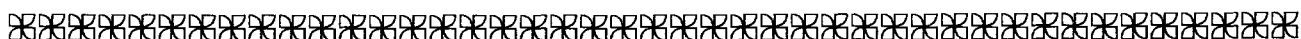
沢出起允	高6回卒	鶴巻 浩	高10回卒
深見洋子	高7回卒	寺山征子	高10回卒
堀 直昭	高8回卒	眞水道子	高10回卒
大橋貞夫	高11回卒		

◎平成3年度の支部会費は3月31日となっております。

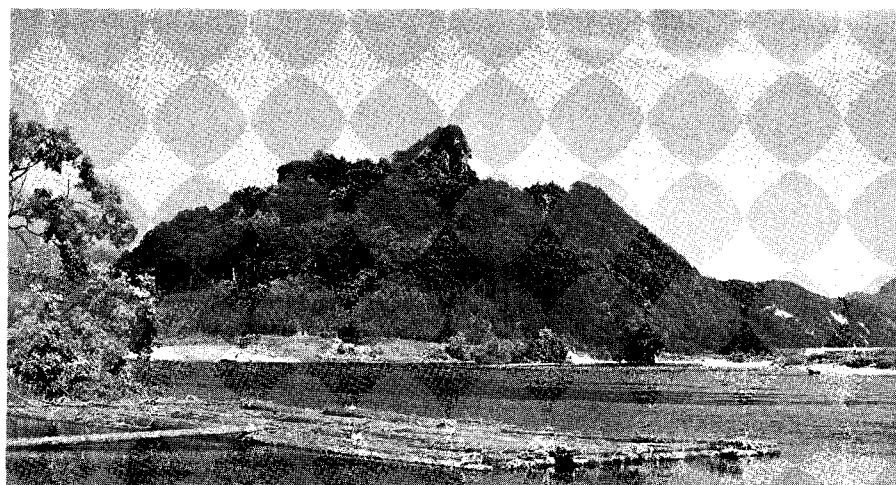
お忘れの方は至急お納め下さるようお願いいたします。

◎平成4年度の会費は4月1日以降に御請求致しますので宜しくお願いいたします。

（経理部）



越後四ヶ道場の1つとして、往古から庶民の厚い信仰を集めて来た曹洞宗の名刹。応永10年(1403)、楠木正成の直孫、傑堂能勝禅師によって中興されたものです。うっそうとした杉並木の参道を歩けば歴史の息吹が感じられるようで、靈気に満ちた清寂に心が洗われる思いがします。この老杉、樹齡400年を越す幹の周り6.7mの大木を始め、その数137本。昭和50年に、県の天然記念物に指定されています。また、数々の伝説や歴史的遺品が残っており、天狗を祀った鎮守堂もその1つ。毎年4月に行われる祭礼は、靈驗あらたかであるとされ、近郷からの参詣者が後を絶ちません。(新潟県景勝百選第5位)



阿賀野川と常浪川の合流点に偉容を誇るきりん山(麒麟山)かつては筏ながしが盛んであったが今は下流にダムが出来たため殆ど筏の姿は見られない。

阿賀野川ラインの景勝地

きりん山温泉 ホテル 福 泉

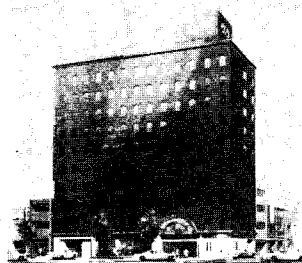
磐越西線 津川駅又は鹿瀬駅下車 バス10分(東蒲原郡鹿瀬町鹿瀬)

電話 02549-2-3131

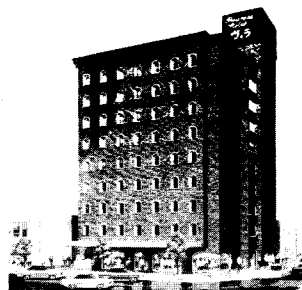
いつもご利用いただきまして有難うございます。本年も又、どうぞよろしくお願い申し上げます。

佐伯光俊

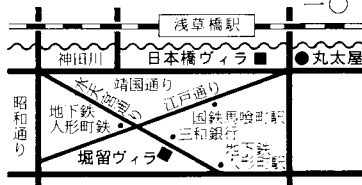
ビジネスに 2つのヴィラ



● 日本橋ヴィラ
東京都中央区日本橋馬喰町二丁目一
電話 (〇三) 三六六八〇八四〇



● 堀留ヴィラ
東京都中央区日本橋堀留
電話 (〇三) 三六六四〇一〇〇一〇〇



● シングル 6,500 円より
(税・サービス料込)

BUSINESS
HOTEL **ヴィラ**

丸太屋株式会社

代表取締役副社長 塚 田 勝

(高 8 回卒)

〒103 東京都中央区東日本橋 2-26-8

電 話 03-3862-0681

自 宅 浦和市原山 4-23-12

商品管理・保管・及び流通加工
御社の分身としてご活用下さい。

京葉梱包倉庫株式会社

本社 ・ 東京都江戸川区篠崎町 5-14-23
TEL (03) 3670-5221 (代)
FAX (03) 3676-1100

第一事業所 東京都江戸川区篠崎町 2-189 TEL (03) 3678-3601 (代)
第二事業所 東京都江戸川区篠崎町 5-14-23 TEL (03) 3698-4711 (代)
第三事業所 東京都江戸川区篠崎町 4-24-1 TEL (03) 3678-9211 (代)
第四事業所 東京都江戸川区篠崎町 5-13-18 TEL (03) 3678-8791
第五事業所 東京都江戸川区南篠崎町 1-2-16 TEL (03) 3676-0125

平成 4 年 1 月 第 12 号

発行人：新潟県立村松高等学校同窓会東京支部

広 報 部

事務局 〒108 東京都港区高輪 2-1-24
TEL 03-3445-6501 (株 寿内)

郵便振替 東京 2-136445